



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 22 年 2 月 13 日(土)  
のしろまち灯り・冬 編

2010 年 2 月 13 日 17 時、まち灯り一斉に点火。第 4 回ののしろまち灯り・冬のスタートです。皆を心配させた午前中の大雪も止み、その雪は揺れるローソクの灯りを一層ひきたて温かな演出をしてくれました。

当日 15 時からスタッフ全員のミーティングがあり、タイムスケジュールと担当部署、進め方の段取りが会長より説明されました。4 回目の開催となり、スタッフ数も 60 名を超え、初回の 3 倍になりました。なんと心強いことでしょうか。

のしろ白神ネットワークの団体以外でスタッフとして協力して下さったのは以下の方々です。コンポスト見直し隊・能代連合婦人会・上町中央商店会・ぐるうぷあばんしえ・能代の産婦人科小児科を守る会・ヒサヤ大食堂・万町の女性の方々・単独ボランティア。

その他に、秋田市の NPO 法人新屋参画屋と能代市職員有志の皆さんが上町周辺の古い建物や珍しい建物(能代市庁舎・議事堂・エワンペーカーリー・巴湯・蔵の店「縄文」)をライトアップして楽しませて下さいました。やま久さんではフリフリうどんや、ねむの木苑の子供たちが作ったそば粉を使ったそば等を空き店舗で販売。西村土建さんはまち灯り前日に通りの雪の山をローダーとトラックで除排雪し、きれいにならして下さいました。また、イベント開催前には能代市子ども館で 120 名以上の子どもたちが廃油ローソク作りに参加してくれました。

上町・柳町・西通町・能代駅前・畠町の各参加商店そして商店会が灯に工夫をこらして道行く人の目を楽しませて下さいました。そのまちをつないでエコバスが走りました。

15 時 30 分、主会場である上町ではまだまだ明るい頃から人出が目立ってきました。おでん・だまこ餅・もつ煮込み・焼き鳥・甘酒・綿あめなどが作られ始め、一帯にいいにおいが立ち込めます。更に、常盤ときめき隊の野菜・漬物・豆類、すみれ会の木都クッキーも販売され、売れ行きも上々でした。

まち灯りも 4 回目となると、スタッフの動きもテキパキとして段取りよくスムーズに作業が進みます。ローソク点火前にほっとステーションはもう満員になりました。知り合い同士おでんやだまこ餅を食べながらおしゃべりをしたり、子ども連れの家族、若い人のグループ、綿あめを買う子どもたちの列、



今回も市民活力推進課・小林さんが両面カラーのきれいなイベントチラシを作って下さいました。



お屋前頃から激しく雪が降り始め、どうなっちゃうんだろうと心配でしたが、点火の頃には雪も風も止み、夕暮れの新雪が灯りを一層引き立てました。



ミーティング後は早速スギ灯りとろうそくの設置を開始。能代河川国道事務所の元気な方々がスコップを持って活躍して下さいました。



## こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

生ビールに焼き鳥、熱燗でもつ煮込みを楽しむ男性たち。あちらこちらから楽しそうな話し声や笑い声があがり、スタッフのかけ声もあって、なんと賑やかなこと。ステーションに入りきらない人は歩道にもあふれ、設置されたベンチで休んだり食事をしたりする人も大勢見られました。ゆっくりと暮れていく冬の穏やかな晩景を楽しみました。

道路向かいの平山商店会場(若いお母さんと子どもたちのフリーマーケットやアイデアグッズ、「あばんしえ」が作った能代案内地図、すみれ会オリジナル小物や木都クッキー等の販売)には子どもたちから年配の方まで大勢の人たちが訪れて下さり、当初の心配を吹き飛ばしてくれました。

どこを見ても人です。それも、能代のどこから出てきたのかと思うくらいです。スギあかりをカメラや写メールに撮っている人もこれまでにない人数でした。今年のローソクは芯を太めにしたせいか炎がしっかりして、風にも消えにくくなりました。幻想的な灯りが能代のまちに一齐に灯されて「能代、元気にな～れ！」と応援してくれているような気がしました。

すみれ会もエコバスに乗ろう！と廃油利用のバスに何人かで乗ってみました。今年は常に満員になるほどの人気で、ガイド役のコンポスト見直し隊の方々も驚いていました。車窓から見る灯りは各地区(町内)ごとに工夫がこらされていて、とてもステキでした。お客さんからは「バスが停まる所で5～10分くらいゆっくり見れたら、もっとよかったのではないだろうか」という声も聞かれました。

私たちは駅前バスを降り、上町まで催し物や歩道に並んだローソクの灯りや雪だるま、かまくらなどを楽しみながら歩いて帰りました。普段は人通りの少ないひっそりとした通りが、このまち灯り参加店の明るさによって人の流れができたのでしょうか、そぞろ歩きの人たちが多く見られました。

そんなお店の中で珍しかったのは、お茶を自分で点てて飲む「お抹茶体験」の接待を受けたことです。若いご主人と奥さんの2人でサービスにがんばっていました。ちょうどその時にお客さんとして居合わせた若い両親と子ども2人の家族の会話を耳にしました。「このお菓子(翁飴)おいしいね、初めて食べたね」と、一箱買っていかれました。普段なら入らないお店だけど、あんどんの灯りにつられて入ったそうです。お店の方のニコニコ顔が印象的でした。



ほっとステーション周辺は日暮れとともに、おいしいにおいとたくさん笑顔でいっぱいになりました。



上町には、この日ならではのメニューやお店が登場しました。



環境企画課・石井さん作成のエコバスチケットを見せれば何度でも乗り降りOKの第一観光のエコバスは子どもにも親子にも人気でした。コンポスト見直し隊が今回も添乗し、企画や見所案内をして下さいました。



新屋参画屋さんと市職員有志のコラボレーションによる趣のある建物のライトアップ。いつもとは全く違った雰囲気になりますね。





こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

商店の後押しも様々見られました。「まち灯り冬限定お菓子」「まち灯りドリンク半額サービスの喫茶店」「まち灯り協賛セール」などと銘うって、バラエティに富んだお店の宣伝と取り組みがあったのも今回の大きな特徴だったと思います。

今回初お目見えの「行灯型スギあかり」が好評でした。これは黒松友の会が七夕田楽づくりの技を生かして作り上げたものです。和紙を使った風除けのついたローソクカバーです。白地に花や手まりの模様を貼ったかわいらしいそのカバーに、お客さんたちの間からも「かわいい！」「いいね」「これ欲しいな」などの声が聞かれました。このスギあかりは協力参加店の前に目印のように飾られました。まさに能代のまちが様々なローソクの灯りでつながった夜でした。

毎回のことながら、まち灯りは「楽しみながら活動しよう！」というすみれ会のモットーなどどこかに吹き飛んでしまうほど慌しく、また、気まぐれな冬の天気予報に一喜一憂する日々でしたが、盛況のうちに無事終えることができました。回を重ねること、続けるということの大切さを強く感じさせられているところです。

文：相澤 レイ子

上町すみれ会は、ほっとステーションで木都クッキー・綿あめ・おでん・もつ煮・ビール・熱燗・ウーロン茶などのメニューで今年も冬のまち灯りに参加しました。

前日より会員が会場セッティングと食づくりの仕事を分担しあいました。特に調理担当は、販売する物に手抜きがあってはならずの方針で、朝からおでんの下ごしらえや、毎回好評ですみれ会の定番商品になった木都クッキーづくりを行いました。イベント前夜、みんなでクッキーの味わいを確かめながら、かわいいリボンを付けた袋詰めの木都クッキーができあがりました。

当日は16時からのスタート。最初は人の出足が鈍くちょっと不安でしたが、18時ごろからあっという間にほっとステーションの中は常に満席。冷えた体を温かい食べ物で暖をとり、一夜のまち灯りをひとりひとりが自由に楽しんでくれているようでした。

文：村上 幸美



黒松友の会・工藤さん製作の風除け付きスギ灯りはろうそくを灯すと一層風情が増し、とても好評でした。



能代工業高校・船山先生お手製LEDライトのスギ灯りは次々と色が変わっていくので、思わず見入ってしまいます。



ほっとステーション内にはすみれ会のあったかメニューが並びました。



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

急な積雪に驚き、今宵晴れるのを祈りながら、まち灯りの準備は雪のかたづけから始まりました。今年のとときめき隊の炭火焼き鳥りの場所は秋田銀行前と言うことで、お客さんの流れはどうなるだろうかと話し合いながら、炭火を準備していると、「焼鳥はまだですか」と早くも声をかけてくれるお客さんがいました。いざ焼き始めるとお客さんの行列ができて、焼き上がるのをいまかいまかと待つくらいの盛況でした。

最後はお客さんに「今日の焼鳥は終わりです」とお断りをし、完売に感謝しました。これからも、よろしくお願い申し上げます。ここで一句詠んでみました。

新雪に エコの灯火 淡く映え

文：岩村 攻

2月13日朝から深深とユキが降り積もり一時はどうなるかと思われた第4回まち灯りも、夕刻になるにつれ雪も止み、寒さは厳しかったものの澄んだ空気のもとに小さい灯りが次々灯された。この4年間で一番雪国らしい良い天候ではなかっただろうか。

我が商店街は今年“灯り”で協力という形をとった。いつもは屋台出店などで共にイベントを盛り上げてきたが、今年は参加を辞退させていただいた。しかしながら、当店は昨年暮れに街づくり委員会の若手の会が発足したのを受けて、この会でまち灯りに参加できないかという提案のもと、参加する運びとなった。プライベートの話で恐縮だが、実はこの日婚活パーティがあり、自らの将来を危惧している私は当初これに参加予定であったが、一人でも多くの市民が楽しみ喜んでもらえればと思い、まち灯りの参加を選んだ次第である。

当店は甘味処として、無料で翁飴とお茶のサービスをさせていただいた。また簡単なミニ茶席でお客さんに抹茶点てをも体験してもらった。これが大変に好評で、自分で点てたお茶を苦くも美味しそうに飲んでいた子供もいた。初めてお店に入り翁飴を食した人もいて当店としては良い宣伝にもなった。しかし、残念な事に予想していた程の人の入りではなかった。ただ当店は今回あえて大きく宣伝せず控えめに参加した為でもある。以前から考えている秘策もたくさんあったが、これはいずれ順次披露することにして、改めてどこのお店でも工夫次第ではこのイベントを活用し“にぎわい”を生むことだって可能なのだと感じた日でもあった。



開始早々からお客さんが次々来店。暗くなる頃には行列のできる焼き鳥店になりました。後姿に見覚えのある方も並んでますね。



商店連合会や商店会でも色々な企画が行われました。





こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

今回のイベントを見ると予想していたより意外に通りを歩く人が少なかったように感じた。家族連れ、ご夫婦が主で、若い人達の姿がなかったのが寂しかった。上町から駅前までを杉灯りやミニかまくらで灯しても、エコバスを運行しては何も意味がなかったと思う。もっと街中を歩いてもらう事こそ皆さんが言う“エコ”ではないでしょうか？ 廃食油や間伐材を一時使ったからエコではなく、エコは故人それぞれが普段の生活の中でコツコツ実践していくものだと思うし、エコを謳わなくても魅力あるイベントであれば人は必ずやって来るのだと…。もっと背伸びせず自分達ができる範囲以内で協力していけば規模を小さくしても中身の濃いイベントは可能であると思う。若いカップル達が行ってきたくるような、そして自然と手を繋ぎ歩いてみたくるような幻想的な通りをもっと演出できるはずである。今一度、本来の“まち灯り”の意味を見直してみたいかでしょうか。

今年で4年目といえ、主催側としても改めて思う事、また改善点も多々あったと思う。今回の反省を生かし今後も楽しみにしてくれている市民の心をまち灯りの灯りで癒して欲しいと思うし、我々もまた微力ながら一商店街として、一個人として協力していければと思う次第です。

文： 畠町商店会松橋会・桔梗屋 武田 成史

私たち「おらほの産科小児科を守る会」は、「まち灯り」に今回初めて参加させていただきました。能代山本では、お産をする場所が1ヶ所しかありません。また小児科も、勤務医・開業医が力を出しあってぎりぎりの人数で救急を支えています。その現状を自分たちも含め、市民に広く知ってもらおうと活動しているのが私たちの会です。地元のお医者さんは地元の限りある資源であると私たちは考えます。大事にしなければ簡単になくなってしまふ、大切な大切な資源です。

一方、のしろまち灯りは廃油から作ったろうそくでまちを明るくするイベントです。この「今あるものを大切に利用して地域を盛り上げよう」という考えが、私たちの考えと似ているかもしれないと思い、参加させていただきました。

私たちは子どもの古着と、手作り小物のお店「おらほの小さなお店屋さん」を、平山計量器店さんの店舗一角をお借りして開きました。才能あるお母さんたちが子育ての合間を縫って作品準備をしてくれました。

前日から雪が降ってイベントがどうなるのかと不安になり



この日は様々な形であちこちに灯りが灯されました。



お店の前で子どもたちは雪遊びです。



子どもの古着や手作り小物のお店はお母さんたちに大好評。お店は大繁盛でした。



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

ましたが、静かに降り積もる雪なのが幸いました。雪とろうそくのコラボレーションのなんと幻想的だったことか！

子どもが小さい家庭は父親の転勤も多く、私たちの会のほとんどが県外・市外出身の母親です。雪の降らないまちから来た人もいれば、地元に住んでいても車生活なので駅前には初めて来たという人もいました。子連れで雪の夜に外出するのは大変ではあったけれど、バスでは皆さん優しく声をかけてくれたり、横断歩道ではゆっくり見守ってくれたり、大変ありがたかったです。能代の人のがあったかさに触れることができました。

家に子どもがいなければ、産科小児科の現状は全く情報が入ってこないと思われます。まず、私たちの会の存在をみなさんに知っていただけたら嬉しく思います。今回場所を提供して下さった平山計量器さん、そしてまち灯り参加のチャンスを与えて下さった能登さん、ありがとうございました。

文：「おれほの産科小児科を守る会」代表 大谷 美帆子



すみれ会コーナーでは木都クッキーや香りろうそく、スギ葉染めの針刺しなどを販売しました。



今回も「木の香る道」モデルを設置。ウッドチップ舗装道の上を多くの人に歩いてもらいました。

■参加団体

○印はネットワークメンバー

○上町すみれ会	やま久	NPO 法人新屋参画屋
○NPO 法人常盤ときめき隊	ヒサヤ大食堂	能代市連合婦人会
○能代バイパス黒松友の会	セキト上町本店	能代市職員有志
○手這坂活用研究会	IT チャオ	
上町自治会	古着屋「Straw」	北羽新報社
中央商店会	一長堂	秋田魁新報社
畠町商店街振興組合	桔梗屋	株式会社ウッディ山内
柳町商店街振興組合	能代市まちづくり合同会社	幸和リース株式会社
柳町女性部	NPO 法人白神ねっと	株式会社第一観光
駅前商店街振興組合	コミュニティハウスぶらんこ	中友商事株式会社
西大通り商店会	ぐるーぷ・あばんしえ	西村土建株式会社
西大通おかみさん会	おらほの産科小児科を守る会	
能代市商店連合会	コンポスト見直し隊	

○能代市 環境企画課・市民活力推進課・子ども館

○能代警察署

○能代河川国道事務所・能代国道維持出張所

○秋田県立大学木材高度加工研究所